

第 67 回神奈川建築コンクール 一般建築物部門審査総評

審査委員：藤岡 泰寛

今年度の一般建築部門への応募は昨年から 2 件減少し 23 件となった。

書類審査による一次選考では、あらかじめ応募作品の資格を確認した上で、各作品に対して審査委員が評価点をつけ全ての作品について合議し現地審査の対象を絞り込んだ。この結果、現地審査の対象となる建築作品は昨年から 1 作品増えて 11 作品となった。

現地審査は 8 月下旬に 3 日間かけておこなわれ、各作品の印象や評価について現地で活発に意見交換された上、最終的な選考を投票により行った。視察後の第 2 次審査委員会で各人の評価点数の合計点を参考に慎重に合議し受賞作品を選出した。この結果、最優秀賞 2 件、優秀賞 5 件、アピール賞 2 件となった。

全体的には設計者自身がより施主や地域の抱えている課題に寄り添い共同作業を通じてまとめあげた労作が多く見られた。厳しい情勢のなかでもこうした優れた作品が生まれることは、神奈川県の特徴と建築の新しい方向を示しているように思う。

最優秀賞となった「**Bosch Fusion Project**」は、横浜市所有の敷地を公民連携により整備し区民文化センターと本社・研究所を一体的に計画したものである。双方の建物を、地層をモチーフとした同一形状の水平ルーバーで覆うとともに、人と緑の共存空間である港北ニュータウンのグリーンマトリックスシステムをオフィス空間にも取り込むなど周辺環境の特徴が丁寧に読み込まれ総合的に優れた建築となっている。

「**山北町立生涯スポーツセンター**」は、町立の木造運動施設である。県内有数の森林面積を有しながら生産量も限られている現状に対して、木材調達から認証、建材としての活用に至るまでの県産木材流通の仕組みづくりにも取り組んだ労作である。150mm 角以下の正角材を用いることで流通性に配慮するとともに、特徴的な屋根架構をあらわしとして見せる工夫が見られ総合的に優れた建築となっている。

つづいて優秀賞の「**徳洲会ジムナスティクスアリーナ**」は、工業地域に建つ体操場複合施設である。明るく開放的な体操場は積層断面を見せる内装用 LVL 材で覆われ大空間でありながら落ち着きのある空間となっている。併設の体操教室やトレーニングジムを含む全体が切妻型の大屋根で覆われることで視覚的な繋がりが生まれ、優れたスポーツ空間となっている。

「**登戸 29 番街**」は、駅前の区画整理事業を通じて生まれた 2 つの隣地に建つ商業・事務所ビルである。地元デベロッパーと設計者が仮換地前から地権者と協働し敷地境界線を融通しあうことで狭小敷地の解決と接道側のにぎわい創出を図っている。また、2 つの建物の動線接続の余地を残す将来変化にも配慮された優れた建築となっている。

「**東急ハーヴェストクラブ VIALA 箱根湖悠**」は、芦ノ湖を臨む斜面地に建つ会員制リゾートホテルである。既存建築物の躯体を解体せず残す計画とし斜面への影響を抑えるとと

もに、建物を地形に沿うよう低く細長く分棟配置し井水や太陽光などの自然エネルギーの利用も積極的に行うなど景観や環境に配慮された優れた建築となっている。

「**神奈川歯科大学 キャンパスセンター**」は、大学事務棟の建て替えを契機としたキャンパスセンターである。三笠公園に面した敷地条件を積極的に取り入れ、設計者が発注者や横須賀市と協議を重ね、学生の居場所の併設や道路境界線をまたいで敷地側に遊歩道の床仕上げを連続させるなどの工夫により周辺環境と調和した優れた建築となっている。

「**川崎朝鮮初級学校**」は、在日朝鮮人の子ども達のための小学校・保育所併設施設である。敷地の一部を売却し、残る跡地に建つ全校生徒 40 名程の小さな学校であり、コストや床面積の制約をひな壇状の校舎の工夫により解決を図っている。テラスの積層は内部に採光と空への眺望をもたらすとともに地域との関係にも配慮された優れた建築となっている。

さらに今回は、アピール賞を 2 作品に授与することとした。

「**海老名総合病院**」は、三角形の不整形敷地を活かし、看護師の動線短縮や多職種が集うスペースの配置などの工夫がみられ、看護師減少などの労働環境の変化にも対応できるよう配慮された点が評価され、アピール賞（不整形敷地の活用）を授与することとした。

「**ザ・ゲートホテル横浜 by HULIC**」は、横浜らしい歴史と文化を色濃く残す建築物に隣接する敷地条件を活かし、建物のコーナーの処理やコーニスの装飾の継承、三層構成のファサードの計画などの工夫が評価され、アピール賞（景観）を授与することとした。